

官民ファンド総括アドバイザー委員会（第1回）

概要

日 時：平成25年5月20日（月） 8:45～9:45

場 所：官邸2階小ホール

出席者：世耕 内閣官房副長官、和泉 内閣総理大臣補佐官、池田 弘 公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会会長、川村 雄介 大和総研副理事長、水野 弘道 京都大学iPS細胞研究所アドバイザー、古谷 内閣官房副長官補、黒田 内閣官房内閣審議官、森 金融庁総括審議官、森山 内閣府PFI推進室参事官、小野 内閣府地域経済活性化支援機構担当室長、関 総務省官房地域力創造審議官、佐藤 財務省大臣官房総括審議官、板東 文部科学省高等教育局長、針原 農林水産省食料産業局長、西山 経済産業省経済産業政策局審議官、永塚 経済産業省商務情報政策局長、鍛冶 中小企業庁事業環境部長、佐々木 国土交通省土地・建設産業局長、白石 環境省総合環境政策局長

1. 開会

開会にあたっての世耕内閣官房副長官からの発言は以下の通り。

- 現在、複数の官民ファンドが設立をされ、また設立準備中の段階にあるが、民間資金がリスクのある分野になかなか入ってこないということで、これらのファンドが今後、民間資金の呼び水として機能していくことを期待している。
- 一方で、公的資金による支援のあり方に対する厳しい目もあり、政府として、各官民ファンドが政策目的に沿って効果的に活用されているか、横串チェックを行う必要があると考えている。
- 今回の会議では、特に次の4点をチェックしていきたい。
 - ①政策目的に応じた投資案件の選定・採択が適切に行われているか
 - ②投資実績が透明性を以て公開されているか
 - ③成長戦略の観点から特に重視すべき、創業・ベンチャー案件への資金供給について特段の配慮がなされているか
 - ④官民ファンドが民業補完となっているか
- これらの観点から、官民ファンドの運営状況等の評価・監視を行う仕組みのあり方について考えていきたい。

2. 議題1 既存ファンドの現状について

配布資料を用いて、経済産業省経済産業政策局から株式会社産業革新機構について、中小企業庁から独立行政法人中小企業基盤整備機構について、内閣府REVIC室から地域経済活性化支援機構について、農林水産省食料産業局から株式会社農林漁業成長産業化支援機構（A-FIVE）について説明がなされた。

3. 議題2 自由討論

自由討論における主な発言は以下の通り。

- 経済運営において、これまでの分配型からボトムアップ型へ変容していく上で、官民の連携は不可欠であり、官民ファンドは良い手本となると考える。
- 資本市場は自由競争が最も行われているマーケットだが、民が自律的にイノベーションを行っていきけるかという点と必ずしもそうでないことも多く、公的な官の関与があって、官が触媒となることで、マーケットが自律的に動いていくという場面も多くある。
- 各ファンドが想定するリスクやリターンの数値、過去の成功事例・失敗事例のケーススタディー、各ファンドのパフォーマンスを評価するための数値、当初から出資している民間側のインセンティブ等について、議論することが重要と考える。
- 地域を支えてきたのは、地域に根を張る地元の企業。地域に密着し、地域での創業を増やさないといけない。そのためには、地域の発展を願う地元企業を中心に、地方金融機関、県や自治体などが拠出した、地域ベンチャーを産み育てるファンドに、官民ファンドも協力することで、地域の民間資金を活かして創業や新規事業創出を促すことが正に必要。
- ファンドのGPとなり得る知見のある人が地方から居なくなっている。都会に住んで地方を見るような人材だけでなく、人材を地方に誘致して住んでもらい、地方の人材を育てて地方に雇用を生んでいかないと、リアリティのある地域活性化は行えない。
- 官民ファンド毎にガバナンスの体制は整えられているが、民間の投資会社のアドバイザリーボードに見合うような役割をそれぞれのファンドが持ち得ているのかということの確認を、本委員会ですでにできればいいと考える。
- ガバナンスとリスクテイクがトレードオフの関係にあるという誤解があるように感じる。アーリーステージの事業への投資はリスクが高いため、投資家は逆に厳しいガバナンスを要求するもの。
- いずれの官民ファンドも民間資金は1%程度しか入っておらず、官民ファンドとしての本来の民の役割である、民間資金をリスクに向けること・民間の視点を入れることによるガバナンスの強化を期待するには不十分な水準と思うので、実際の運用において民がどのように役割を果たしているかをチェックしたい。
- 官民ファンドは、個別案件において民間ではとれないリスクをとるとしても、全体のポートフォリオとしては納税者負担にならない、つまり国富の安全運用を行うことが求められている。そのためのポートフォリオマネジメントがどのようになされているのかを確認したい。
- シリコンバレーで最大級規模のファンドでも500億円規模であり、各プログラムがいかに巨額の資金のマネジメントを行おうとしているかということを認識した上で人事・組織も含めて考えていく必要がある。

以上